



霞ヶ関フィルハーモニー管弦楽団
第五回記念演奏会



2009年10月25日(日)

13:30開場 14:00開演

ティアラことう 大ホール



PROGRAM

ボロディン／歌劇「イーゴリ公」序曲
ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第2番ハ短調 0p. 18

— 休憩 —

ブラームス／交響曲第1番ハ短調 0p. 68

顧問挨拶 古川 貞二郎 (元内閣官房副長官)

本日は、霞ヶ関フィルハーモニー管弦楽団第5回記念演奏会にご来場いただき、心から御礼申し上げます。

霞ヶ関界隈で働く若手の公務員が中心となり、2004年に結成されたこのオーケストラですが、今年で結成5周年を迎え、第5回記念演奏会を開催する運びとなりました。本日は、この5年間で培ってきた団員の結束力や音楽の表現力を存分に活かし、これまでの演奏会以上に、皆様に充実したハーモニーをご提供できるものと思います。

5周年を迎えたばかりのまだまだ新しいオーケストラですが、今後も精力的に演奏活動に取り組んで参りますので、引き続き暖かいご声援を頂戴できますよう、お願い申し上げます。本日はどうぞごゆっくりお楽しみください。

代表挨拶 団長 堀口 岳史

本日の演奏会では、ブラームスの交響曲第1番を演奏します。ブラームスが残した4つの交響曲の中で、最も長い時間をかけて作られた名曲……という話は有名ですが、私個人にとっても、この曲は思い入れのある曲です。

それは今から6年前。就職活動中の私は、面接の待合室で、初対面のトロンボーン吹きと（就職活動の真っ只中にも関わらず）この交響曲について熱く語り合っていました。そして社会人になり、このトロンボーン吹きを含めたメンバーで霞ヶ関フィルを発起したのです。まさに、この交響曲があったからこそ今の霞ヶ関フィルが存在するのであり、いつからか「このオーケストラでブラ1を演奏したい」と考えていました。

本日は、こうした思い入れ深い交響曲や、3年前の演奏会で華麗なショパンを披露された上野さんによるピアノ協奏曲など、節目に相応しい曲目を演奏します。5年間かけて得てきたものを存分に発揮し、素晴らしい演奏を皆様にお届けしたいと思います。

最後になりましたが、本日ご来場の皆様はもちろんのこと、磯先生、上野さんをはじめ、演奏会開催にあたりご支援・ご協力下さった全ての方々に厚く御礼申し上げます。

第5回記念演奏会に寄せて 太田 喜久・迫田 英晴・林 剛史

私たちのオーケストラが5回目の演奏会を迎える・・・とても感慨深いものがあります。「創業は易く、守勢は難し」という言葉があるように、まったくゼロの状態から新たにオーケストラを立ち上げ、その活動を継続させていくことには予想以上の困難を伴いました。しかし、新しく創ってきたからこそ、得られたものも数多くありました。

そもそも「音楽」自体が創造的な営みであると言えますが、新しいオーケストラを自分たちで作っていくということは、さらに創造性に富んだ、この上なく面白い活動であったと思います。こうして迎えた本日の第5回記念演奏会は、設立当初から掲げていた一つの大きな目標でした。そして、その目標が今、「通過点」に変わろうとしています。

これからも、私たちは霞ヶ関フィルハーモニー管弦楽団を通して知り合った素晴らしい仲間たちとともに、素敵な音楽を創り続けていきたいと考えています。

本日はご来場誠にありがとうございます。改めまして厚く御礼申し上げます。

指揮者紹介 磯 恒男



5歳よりヴァイオリンを始め、天江安三郎、三浦二郎、村山信吉、小野アンナ、ジャンヌ・イスナールの各氏に師事。第8、10回学生音楽コンクール入賞。1962年第1回リサイタル開催、'66年イソ弦楽四重奏団結成。'67年フランスに留学、ガブリエル・ブイヨン氏に師事。'68年東京フィルハーモニー交響楽団首席コンサートマスターに就任。東フィルその他の交響楽団と協演。'89年東京交響楽団第一コンサートマスターに就任。'99年まで、コン

サートマスターを31年間務めた。

全日本学生音楽コンクール、日本音楽コンクール、神奈川学生音楽コンクール、NHK洋楽オーディション、練馬文化センター新人オーディション等の審査員を歴任。

現在イソ弦楽四重奏団、イソ弦楽合奏団主宰、洗足学園音楽大学教授、桐朋学園講師。



独奏者紹介 上野 優子

東京都出身。5歳より桐朋学園大学附属「子供のための音楽教室」入室、同高校音楽科を経て同大学へ入学。大学2年次にイタリア、イモラ国際ピアノアカデミーへ留学。2003年ピアノ科ディプロマを取得、2008年卒業後コース修了。2005年よりパリ、エコールノルマル音楽院においても研鑽を積む。2008年ピアノ科コンサーティスト課程のディプロマをM. アルゲリッチ、A. R. エル＝バシヤ、C. カツァリス各氏に認められ取得。2009年室内楽科コンサーティスト課程のディプロマをB. パスキエ氏ら審査員満場一致で取得。

1996年全日本学生音楽コンクール東京大会第3位。1999年浜松国際ピアノアカデミーコンクール第4位。2002年コレッリ音楽コンクール全部門グランプリ。2004年プッチェルダ国際音楽祭コンクール最高位。2007年ファッラ国際音楽コンクール第1位。ナポリターノ国際ピアノコンクール第3位。2008年フンメル国際ピアノコンクール名誉賞。

日本はもとより、欧州、米国各地でソロ、室内楽、オーケストラとの共演などの演奏活動を行っている。2008年レグルスよりファーストCDをリリース、「レコード芸術」誌で準推薦盤に選出される。

これまでにピアノを鬼村弘子、鍵岡真知子、深沢亮子、有賀和子、F. スカラ、L. マルガリウス、B. ペトルシャンスキー、故 G. ムニエ、M. リビツキー、J. M. ルイサダ各氏に、フォルテピアノをS. フィウツィ氏に、室内楽をG. マルティニー氏に師事。日本演奏連盟、日本ロシア音楽家協会会員。



♪ 曲目解説 ♪

ボロディン／歌劇「イーゴリ公」序曲

代表的なロシア国民主義の歌劇であり、ボロディンの作品の中で最も個性が発揮されたものとして知られています。歌劇「イーゴリ公」は、中世ロシアの叙事詩「イーゴリ公軍記」を題材に、イーゴリ公が南方の草原地帯に現れた遊牧民族ポロヴェツ人（韃靼（だつたん）人）と戦う愛国物語です。

ロシアの芸術評論家であったウラディミール・スターソフは、変化に富み、情熱的で劇的な物語の内容がボロディンの芸術性に非常に良く合うと考え、彼にこの曲の作曲を勧めましたが、完成するには至りませんでした。

本日演奏する序曲は、残された草稿や生前ボロディンが友人達にピアノで弾き聞かせていた記憶をたどり、グラズノフが構成したものです。序曲は歌劇の中の旋律をいくつか用いたソナタ形式から成り、深い響きの序奏が終わると、金管がファンファーレを吹き、その後は第二幕のイーゴリのアリアを原型とした旋律や第三幕の三重唱から取られた旋律等が続きます。ダイナミックな全合奏の音形は第二幕のコンチャック汗のアリアの伴奏部です。

祖国の危機を救うため、ポロヴェツ人との戦いに出かけるイーゴリ公の断固とした決意が感じられる曲となっています。



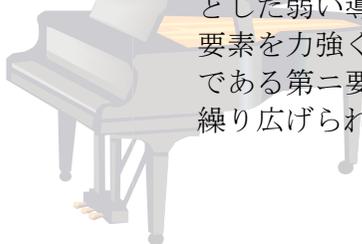
ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第2番ハ短調 Op. 18

ラフマニノフの最高傑作として親しまれる彼の出世作です。相手の心に直接訴えかける表現とピアノの魅力をも十分に発揮させる完璧な構造となっており、時代を通じ常に人気のあるピアノ協奏曲のひとつです。

第1楽章：冒頭でピアノが暗く荘重な和音を独奏し、その後管弦楽の力強い第一主題が加わります。荒々しい全合奏でこれを締めくくり、ヴィオラに導かれたピアノ独奏による、甘く静かに心の奥深くに溶け込む第二主題がたっぷりと歌い上げられます。

第2楽章：ラフマニノフの抒情性が最も良く表現された楽章で、その始まりは第1楽章と対照的に緩やかなものです。弦管楽器による序奏にピアノが加わり、この上にフルートが主要主題を独奏し、クラリネットに受け継がれた旋律が甘美でやるせなく歌われます。ピアノを主体とした中間部のスケルツォを経て、再現部では弦楽合奏が主旋律を奏でます。

第3楽章：主題は二つの要素が変化を加えながら交互に登場します。弦楽器を主体とした弱い導入から突然巨大な全合奏に成長し、その後、ピアノが第一要素を力強く奏で、オーボエとヴィオラがラフマニノフの名旋律の一つである第二要素を歌い上げます。最後は駆け巡るようなピアノの演奏が繰り返され、全合奏の強打で締めくくられます。



ブラームス／交響曲第1番ハ短調 Op. 68

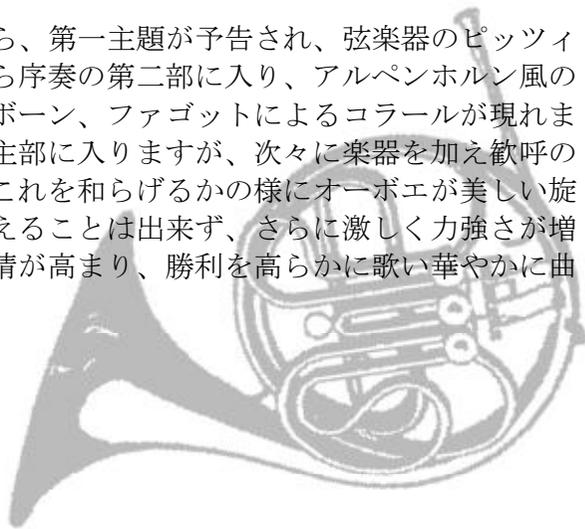
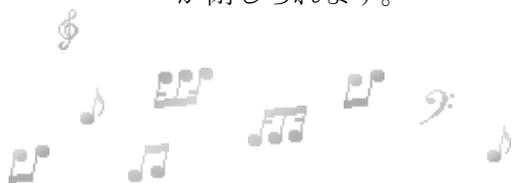
ブラームスはベートーヴェン以後の最大の交響曲作者と言われており、本日演奏する「交響曲第1番」は、指揮者のビューローによってベートーヴェンの第10交響曲と絶賛されました。曲調は、第1楽章がベートーヴェンの交響曲第5番と同様であり、第4楽章の主要主題はベートーヴェンの交響曲第9番の歓喜の合唱主題に良く似ています。この曲が完成するまでには21年もの時間が掛けられていますが、ブラームスがベートーヴェン以上の作品を作ろうとしたからであり、それ程思い入れの強い曲だと言えます。

第1楽章：コントラファゴットやコントラバス等の低音楽器の強い連打に、ヴァイオリン、チェロの上昇する音階的な旋律と木管、ホルン、ヴィオラの旋律が交錯する印象的な序奏で始まります。その後は優しい旋律と激しく強烈な旋律が繰り返され、最後はティンパニの弱い連打に第一主題を思わせる旋律が演奏され、情景を込めて静かに終わります。

第2楽章：本来、この楽章は明るく輝かしいはずが、ブラームスらしい孤独の影を宿したわびしい色調に全体が支配されています。気高い印象を与え、最後はハープ風な弦の上昇ピッツィカートで静かに終わります。ホルン、オーボエ、ヴァイオリンが美しい旋律を独奏します。

第3楽章：ベートーヴェンからの伝統を避け、上品に整った曲となっており、素朴な心の落ち着きを見出しながら、痛々しい寂しさを漂わせています。曲は三部形式となっており、第一部は柔らかい旋律で始まり、軽快な旋律へと続きます。第二部では明るいトリオが続きますが、弦と管の掛け合いは興味深く、曲の雰囲気を一変させ、いくらかユーモラスになっています。第三部は第一部の繰り返しですが、前の形にかなりの変化が加えられています。

第4楽章：第1楽章序奏を回顧しながら、第一主題が予告され、弦楽器のピッツィカートと交互に発展しながら序奏の第二部に入り、アルペンホルン風の朗々とした旋律と、トロンボーン、ファゴットによるコラールが現れます。これを静かに終え速い主部に入りますが、次々に楽器を加え歓呼の嵐へと発展していきます。これを和らげるかの様にオーボエが美しい旋律を奏でますが、興奮を抑えることは出来ず、さらに激しく力強さが増します。最後はだんだん感情が高まり、勝利を高らかに歌い華やかに曲が閉じられます。



霞ヶ関フィルハーモニー管弦楽団の歩み



♪ 2004年 発足

団長とOが職場の同期として知り合い、オーケストラを立ち上げようと意気投合。

——きっかけは、Oのアドレスに含まれていた「violin」の文字列。



霞ヶ関の同期であるHとSを発起人メンバーに追加。

——団長とOは弦楽器奏者、HとSは金管楽器奏者。曲の趣味に若干の偏りが……。



新橋の某居酒屋チェーン店内でオーケストラを発起。

——「名前は何にしようか？」

『霞ヶ関フィルハーモニー管弦楽団』にしよう(即答)。インパクトがあるし。」

→ オケ名は「霞ヶ関フィルハーモニー管弦楽団」に決定。



霞ヶ関内外の幅広い層のメンバーを集め、翌年の演奏会を企画。

——メンバー集めは一苦勞。それは今も変わりません……団員募集中です！

♪ 2005年 第1回演奏会～創立記念演奏会～(10/1)



- ・モーツァルト／ヴァイオリン協奏曲第3番ト長調 K. 216
(ヴァイオリン独奏 磯 恒男)
- ・ブラームス／弦楽六重奏曲第1番変ロ長調 Op. 18 より第2楽章
(オーケストラ版)
- ・チャイコフスキー／交響曲第5番ホ短調 Op. 64

初の演奏会！モーツァルトのヴァイオリン協奏曲では、我が団の指揮者でもある磯先生による素晴らしいヴァイオリン独奏が会場に響き渡りました。

♪ 2006年 室内楽演奏会(4/15)

- ・アルビージ／小組曲第2番
- ・モーツァルト／クラリネット五重奏曲イ長調 K. 581
- ・グリーグ／ホルベルク組曲 他



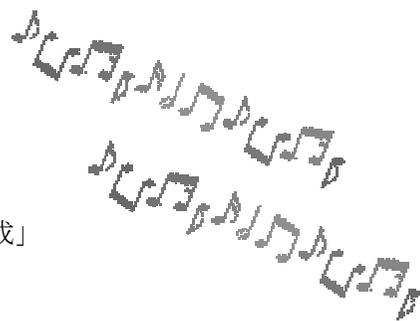
第2回定期演奏会(9/30)

- ・ショパン／ピアノ協奏曲第1番ホ短調 Op. 11
(ピアノ独奏 上野 優子)
 - ・ブラームス／交響曲第2番ニ長調 Op. 73
- ピアノのコンチェルトに挑戦しました。ソリストは今回の演奏会と同様、上野優子さんです♪

♪ 2007年 室内楽演奏会 (1/13)

第3回定期演奏会 (9/29)

- ・ ロッシーニ／歌劇「セビリアの理髪師」序曲
- ・ シューベルト／交響曲第8番ロ短調 D. 759 「未完成」
- ・ シベリウス／交響曲第2番ニ長調 Op. 43



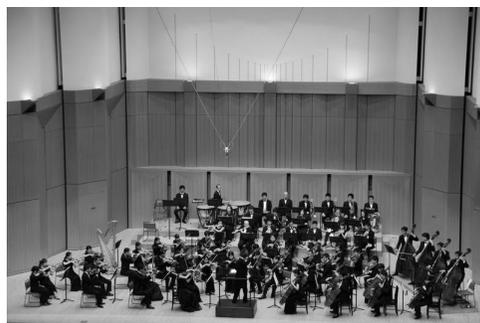
♪ 2008年 室内楽演奏会 (1/19)

文化庁「霞が関から文化力」プロジェクト：サロンコンサート出演(4/28)
文化庁推進の「霞が関から文化力」プロジェクトのイベントに出演しました。

第4回定期演奏会 (9/6)

- ・ メンデルスゾーン
／劇付随音楽「真夏の夜の夢」より序曲
ホ長調 Op. 21
- ・ チャイコフスキー
／幻想序曲「ロメオとジュリエット」
- ・ ドヴォルザーク
／交響曲第9番ホ短調 Op. 95 「新世界より」

これまでの中で、一番多くの方に演奏を聞いていただくことができました。演奏会前にはこんなお茶目な一面も ⇒⇒⇒



♪ 2009年 室内楽演奏会 (3/21)

♪ 第5回記念演奏会 (10/25) ♪

霞ヶ関フィルハーモニー管弦楽団第6回定期演奏会のご案内

来年3月下旬から4月上旬頃、東京都内で演奏会を開催する予定です。
詳細については、決まり次第当団ホームページに掲載します
お楽しみに！！

《霞フィルHP》 <http://kpo.nomaki.jp/>



《お問い合わせ》 kasumi_phil@yahoo.co.jp

演奏者一覧 (○は各パートトップを示します。)

〈1st Violin〉	〈Viola〉	〈Contrabass〉	〈Horn〉
○赤谷 麻愛	伊佐山 加奈子	大前 進	大高 奈穂子
磯 響子	小野 美子	○川口 有喜	金子 昌弘
磯 祥男	吉良 爽	秦 敦子	唐木 智史
市ノ渡 佳明	小島 綾太	古庄 正典	○小磯 治
江田 和宏	高柳 文恵	山田 大志	湯澤 結美
納富 史仁	田中 裕子		
平岩 彩	福井 令以	〈Flute〉	〈Trumpet〉
保立 有希子	○堀口 岳史	○浅野 嘉邦	○迫田 英晴
松波 晴彦	前川 雅之	小杉 枝里	高橋 良治
宮下 詩織	山本 聡	早川 博美	橋本 綾子
〈2nd Violin〉	〈Violoncello〉	〈Oboe〉	〈Trombone〉
青木 知子	浅見 直希	○高寺 宏典	○石川 真一
阿部 純子	板倉 葉由子	保永 昌彦	小野 芳清
太田 喜久	市 寛也		鳥羽 高清
大矢 由利子	北沢 治	〈Clarinet〉	林 剛史
河合 徳子	○清水 研一	北原 まどか	
○川窪 百合子	鈴木 恵	○小島 慎平	〈Tuba〉
近藤 かおり	高野 純二	佐貫 美弥子	○津留 雅弘
佐合 俊久	樋之口 耕		
西川 英	矢部 愛	〈Fagott〉	〈Percussion〉
藤井 信也	山内 敬博	○川野 雅美	永尾 裕司
宮家 陽子	我妻 礼子	藤原 冬樹	○横田 直人
和田 沙織		宮澤 新	坂本 紘作



役職

団 長	堀口 岳史	コンサート・マスター	赤谷 麻愛
副 団 長	林 剛史、迫田 英晴	弦セクションリーダー	堀口 岳史
会 計	保立 有希子	木管セクションリーダー	高寺 宏典
広 報	赤谷 麻愛、橋本 綾子	金管セクションリーダー	石川 真一
ライブラリアン	近藤 かおり		
イベント	迫田 英晴、佐合 俊久		